



七夕 風船リリース

七夕は古くから行われている

日本のお祭り行事で、1年間の重要な節句のひとつにも数えられています。では、どのようにして始まったのでしょうか？起源には日本の神事であった「棚機(たなばた)」、織り姫と彦星の伝説、奈良時代に中国から伝来した「乞巧奠(きこうでん)」など、数多くの説があります。

諸説ある中で、三重病院の七夕は、津市青年会議所の皆さんの協力により、毎年「七夕風船リリース」を行っています。七夕当日は、会員の皆さんが朝から200個の風船を膨らませたり、会場設営をしたり…と大忙しでした。この風船は自然に優しい素材の風船なので、風船を飛ばすことによる環境汚染等の心配はありません。14時30分にセレモニーが始まり、青年会議所の皆さんによる「3.2.1」のかけ声で、参加くださった患者さんたちで一緒に飛ばしました。とてもキレイな風景で、いつまでも風船の行き先を眺めている患者さんたちもいました。

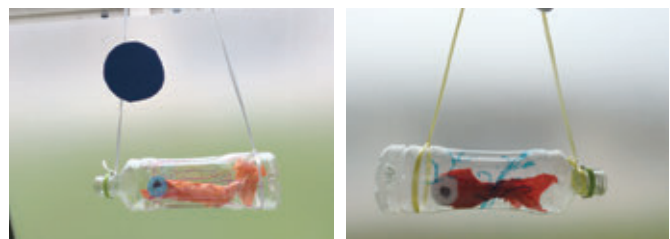
今年は残念ながらの雨でしたが、織り姫と彦星の二人は出会えたのでしょうか？ 会えなかったのでしょうか？「少しでも雨が降れば二人は会えない」というところもあれば、「雨でもカササギという鳥が架け橋となって二人は出会える」というところもあります。7月7日の夜、織り姫と彦星は待ちに待った「再会」という願いをかなえます。人々は「二人のように、願い事がかないますように」と、たんざくに色々な願い事を書いて、笹や竹の葉に飾るようになったという説があります。竹や笹を川や海に飾りごと流す風習には、竹や笹にけがれを持っていってもらうという意味もあるようです。



皆さんは、どのような願い事を書かれたのでしょうか？皆さんの願い事が叶うことを願い、毎年三重病院から風船は飛び出します。来年もお楽しみに！(指導室 丸澤 由美子)

やまばとギャラリー information 情報コーナー

今月のやまばとギャラリーの作品は「金魚」です。制作している時に、患者さんの手の中でクシャクシャと丸めた紙が、金魚に変身するのを見て驚いていました。その金魚がペットボトルの中で泳いでいます。どうやってペットボトルの中に入ったのでしょうか？かわいい金魚たちは是非会いに来てください！(児童指導員 筒井 皓太)



「通所支援事業」の夏！

5月号より、毎号「通所支援事業」についてお知らせしていますが、今回は「通所支援事業」で取り組んでいる療育活動について、ちょっぴりご

紹介したいと思います。

通所支援事業では、食事や排泄支援・リハビリ…など、さまざまなことを行っていますが、療育活動も大切な取り組みのひとつです。制作・スヌーズレン・パラシュート・音楽活動等を中心にさまざまな体験を行っています。その中で、8月は「一身田大盆踊り大会」の「あんどんコンクール」へ出品する作品作りを行うことにしました。制作テーマは「夏の家」で、利用者さんの手形・足形を魚に見立てることにしました。利用者さんの手足に絵の具を塗ると不思議そうな表情をしたり、眉間にしわを寄せて絵の具のついた手足をのぞき込んだりする姿がみられ、普段とは違う感触を楽しんで?!いたようです。

みんなで取り組んだ手形・足形が大小色とりどりの魚に出来上がり、とっても素敵な「あんどん」が完成しました。作品は8月5日～10日までは高田会館ロビーで、8月11日の盆踊り当日も展示されるそうです。ぜひ、近くを通られた際はご鑑賞ください。(指導室 丸澤 由美子)



異動のごあいさつ

平成30年7月1日付



●小児科 松浦 有里 先生

はじめまして。松浦有里と申します。

6月まで伊勢赤十字病院で勤務させていただき、7月より三重病院でお世話になることとなりました。

津市出身なので、生まれ育った津市で勤務できることとなり嬉しく思います。

お子様が少しでも笑顔になれるよう努力してまいりますので、未熟な面も多々あるかと存じますが、どうぞよろしくお祈りいたします。



●小児科 米野 翔太 先生

はじめまして、7月より三重病院小児科に赴任させて頂きました米野翔太と申します。

私は今年で卒後4年目、小児科後期研修医2年目になります。

前任地は三重県立総合医療センター小児科で勤務させて頂きました。

医師になってまだ4年目であり、まだまだ未熟者ですが、日々、研鑽を積んでいきたいと思っております。

三重病院小児科でも子供達が少しでも早く元気になり、笑顔になれるように手助けしたいと思っております。

何卒よろしくお祈り致します。

